

### ごんぎつね ③

名前	

「ごんぎつね」を読みながら、ことばのきまりを勉強しましょう。

①から⑤までのひらがなをへくのなかに入れながら読んでみましょう。

#### 【例】

これは、私が小さいときに、村の茂平もへいというおじいさんへからくきいたお話です。

むかしへはへ、私たちの村へのちかくの、中山というところへに小さなお城へがあって、中山さまというおとのさまが、おられたそうです。

- ①が
- ②に
- ③の
- ④から
- ⑤は

#### 【一】

兵十が、赤い井戸のところ、麦へといっていました。

兵十へへ今まで、おっ母と二人ふたきりで、貧しいくらしをしていたもので、おっ母へへ死んでしまったは、もう一人ぼっちでした。

「おれと同じ一人ぼっちへへ兵十か」

こちらの物置もの置きの後へへ見ていたごんは、そう思いました。

- ①が
- ②から
- ③の
- ④を
- ⑤は

【二】

ごんは物置のそばをはなれて、向うへいきかけますと、どこかで、いわしへく売る声がします。

「いわしのやすうりだあい。いきのいいいわしだあい」

ごんへく、その、いせいのいい声のする方へ走っていきました。と、弥助のおかみさんへく、裏戸うらど口から、

「いわしをおくれ。」と言いました。いわし売は、いわしのかごをつんだ車を、道ばたにおいて、ぴかぴか光るいわしを両手でつかんで、弥助の家の中へくもってはいました。ごんはそのすきまに、かごの中から、五、六ぴきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしました。そして、兵十の家の裏口から、家の中へいわしを投げこんで、穴へ向ってかけもどりました。途中の坂の上でふりかえって見ますと、兵十がまだ、井戸のところであをといでいるのが小さく見えました。

ごんは、うなぎのつぐないへく、まず一つ、いいことをしたと思いました。

- ①が ②へ ③に ④を ⑤は

【三】

つぎの日には、ごんは山で栗をどつきりひろって、それをかかえて、兵十の家へくいきました。裏口からのぞいて見ますと、兵十は、午飯ひるめしをたべかけて、茶椀ちawanへくもったまま、ぼんやりと考えこんでいました。へんなことには兵十の頬ほぺたに、かすり傷へくついてあります。どうしたんだろうと、ごんが思っ

ていますと、兵十がひとりごとをいいました。

「一たいだれが、いわしなんかをおれの家へほうりこんでいったんだろう。おかげでおれへへ、盗人ぬすびとと思われる、いわし屋のやつへへ、ひどい目にあわされた」と、ぶつぶつ言っています。

- ①が ②へ ③に ④を ⑤は

【四】

ごんは、これはしまったと思いました。かわいそうに兵十は、いわし屋へへぶんなぐられて、あんな傷までつけられたのか。

ごんへへこうおもいながら、そっと物置の方へまわってその入口に、栗へへおいてかえました。

つぎの日も、そのつぎの日へへごんは、栗をひろっては、兵十の家へへもって来てやりました。そのつぎの日には、栗ばかりでなく、まつたけも二、三ぼんもっていきました。

- ①も ②へ ③に ④を ⑤は

## 答え

### 【一】

兵十が、赤い井戸のところ、麦へをくといでいました。

兵十へは「今まで、おっ母と二人きりで、貧しい暮らしをしていたもので、おっ母へが死んでしまつては、もう一人ぼっちでした。

「おれと同じ一人ぼっちへのおっ母か」

こちらの物置の後へから見ていたごんは、そう思いました。

- ①が ②から ③の ④を ⑤は

### 【二】

ごんは物置のそばをはなれて、向うへいきかけますと、どこかで、いわしへを売る声がします。

「いわしのやすうりだあい。いきのいいいわしだあい」

ごんへは、その、いせいのいい声のする方へ走っていきました。と、弥助のおかみさんへが、裏戸口から、

「いわしをおくれ。」と言いました。いわし売は、いわしのかごをつんだ車を、道ばたにおいて、ぴかぴか光るいわしを両手でつかんで、弥助の家の中へへもつてはいました。ごんはそのすきまに、かごの中から、五、六ぴきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしました。そして、兵十の家の裏口から、家の中へいわしを投げこんで、穴へ向ってかけもどりました。途中の坂の上でふりかえって見ますと、兵十がまだ、井戸のところ、麦をといでいるのが小さく見えました。

ごんは、うなぎのつぐないへに、まず一つ、いいことをしたと思いました。

- ①が ②へ ③に ④を ⑤は

【三】

つぎの日には、ごんは山で栗をどっさりひろって、それをかかえて、兵十の家へへいききました。裏口からのぞいて見ますと、兵十は、午飯をたべかけて、茶碗へをもったまま、ぼんやりと考えこんでいました。へんなことには兵十の頬ぺたに、かすり傷へがついています。どうしたんだろうと、ごんが思っていますと、兵十がひとりごとをいいました。

「一たいだれが、いわしなんかをおれの家へほうりこんでいったんだろう。おかげでおれへは、盗人と思われて、いわし屋のやつへに、ひどい目にあわされた」と、ぶつぶつ言っています。

- ①が ②へ ③に ④を ⑤は

【四】

ごんは、これはしまったと思いました。かわいそうに兵十は、いわし屋へにぶんなぐられて、あんな傷までつけられたのか。

ごんへはこうおもいながら、そっと物置の方へまわってその入口に、栗へをおいてかえりました。

つぎの日も、そのつぎの日へもごんは、栗をひろっては、兵十の家へへもって来てやりました。そのつぎの日には、栗ばかりでなく、まつたけも二三ぼんもっていきました。

①も

②へ

③に

④を